

最優秀賞

神奈川県社会福祉協議会長賞

祖父の免許返納に立ち会って

厚木市立林中学校

一年 佐藤美咲

最近、高齢者ドライバーによる事故が後を絶たない。私の祖父も、つい先日まで高齢者ドライバーだった。だが、免許を返納し、これからの交通手段はタクシーになった。私はこの祖父の行動は、立派でとても勇気のある行動だと思った。なぜなら、本人としてはまだ自信があったにもかかわらず、自分のため、家族のために、リスクの少ない道を選び行動したからである。そこに行き着くまでには、さまざま迷いや思い悩んだこともあったのだろう。それに、自分の限界を認めることは悔しいし、難しい。ましてや「認める」という行為は自分の中だけにあるものだが、「返納する」という行為は、目に見える形で自分の運転の限界を示すことだ。認めるという心の中での行動より、返納するという目に見える形での行動のほ

うが、何倍も悔しく、何十倍も難しく、何百倍もの葛藤があつたにちがいない。そういういろいろな感情を乗り越えて返納を決意した人たちは、やはりとても立派で、人生にとつて間違ひなくプラスの決断をした、強い心の持ち主なのだと思う。これからは、自分で運転することはできないが、タクシーやバス、デイケアサービスの買い物、リハビリなど、さまざまな手段を活用しながら、上手に、楽しく、幸せに生活して行ってほしい。

私が祖父の免許を返納する準備をしているときに思ったことがある。それは、返納すると最終的に決めたのは祖父だが、祖父が良い決断をするに至った背景には、周りの人の支えが大きく関係していると思つたことだ。母が主な段取りを担い、ケアマネージャーの方が、調べただけではわからない専門的な知識をフル活用して、祖父を支えてくれた。ケアマネージャーの方は、祖父と祖母が車を手放した後の生活が、どうすれば快適に過ごせるかなどの疑問に、丁寧に答えてくれた。実際に祖父の家に来て、返納後の生活について具体的に話してくれたことで、今まで何もわからず、不安ばかりが募っていた祖父の心に、返納後の生活も楽しみだといった、いわば光が差したのだと思う。その他にも、祖母が一番近くで励ましたり、デイケアサービスの人が、これまで返納した人がどう工夫して生活を送っているかなどのお話もしてくれた。その話を聞いたことで、祖父も返納後の生活について想像しやすくなり、だいぶ見通しが持てるようになったのではないかと思つた。その姿を見て、私たち家族も安心した。車がある無いに関わらず、自分たちで考え工夫をすれば、生活を豊かにすることはいくらでもできると思つた。たくさんの人が親身になって、祖父のことを支えたからこそ、

今回の免許返納までスムーズに事が進んだのだと思う。支えてくれた方々には感謝しかない。そして、行政の取り組みの一つであるタクシー券の配布も、返納のきっかけを作ってくれた。こういう取り組みがあるからこそ、一步踏み出せる人も少なからずいるはずだ。高齢者に優しい地域を作ることが、事故を減らすことにもつながると思う。

私は、免許を返納することは、その人が車と共に安全運転で駆け抜けたことを示す証だと思ふ。無理に運転して事故を起こし、残りの人生を「犯罪者」というレッテルをはられて生きるのではなく、素敵な余生を過ごすためにも、私は免許を返納することを強く勧めたい。しかし、返納することに対してのためらいもあるにちがいない。そういう時は身近な人が手を差し伸べ、背中を押してあげることが大切だと思う。人に対して暖かく、優しい地域を作ること、免許返納を身近に感じることができ、気軽に返納できるようになると思う。今後、高齢者に対する支援の輪がさらに広がりをみせ、車が無くても便利に生活できる世の中になることを期待したい。